

原著

祖父母の子育て参加が母親の子育てに与える影響

八重樫牧子^{*1} 江草安彦^{*1} 李 永喜^{*1} 小河孝則^{*1} 渡邊貴子^{*1}

要 約

母親の子育て不安や子育て負担感を軽減するための子育て支援の一つとして、中・高年齢層の豊かな子育て経験を生かした子育て支援が重要であるといわれている。本稿では、祖父母の子育て参加の実態を明らかにするとともに、祖父母の子育て参加と母親の子育て不安との関連性について検討した。

乳幼児を持つ652人の母親にアンケート調査をした結果、以下のことが明らかになった。①子育ての相談相手や情報源として母親の父母(子どもにとっては祖父母)をあげているものが多く、子育て不安との関連性も高かった。②孫の近くに住んでいる祖父母は、孫とよく交流していた。③祖父母の子育て参加や孫との関係の多い順序は次の通りであった。母方祖母、父方祖母、母方祖父そして父方祖父の順であった。④祖父母の子育て参加頻度が中程度の母親の子育て不安が低くなっていた。

緒 言

都市化や核家族化及び少子化の進行に伴い、子どもを取り巻く家庭や地域社会が著しく変化した。その結果、家庭や地域社会における子育て状況も変わりつつある。小さい子どもとの接触体験が乏しいまま親になる男女が増えてきている。その結果、若い親たちは子育てに関する知識や技術が不十分なまま子育てをしなければならない場合が多くなってきている。また、地域でのつながりが希薄になり、親同士が子育てで情報を交換し、助け合う機会も少なくなっている。さらに母親が一人で子育てに専念することが一般化し、子育ての責任が母親に集中しがちである。一方、女性の社会進出が進む中で、働く母親に仕事・家事・子育てという過重な負担がかかってきている。

このような状況の中で、子育て不安を訴える母親や育児ノイローゼに陥る母親が増えてきている。母親が子育てに不安やストレスを感じながら子どもに接することは、子どもの心身の発達に好ましくない。また母親が児童虐待に至るといった事態も起こり得る¹⁾。

母親の子育て不安や子育て負担感を軽減するためには、父親が子育てに参画することが必要である。また、できる限り多くの人の子育てにかかわり、単眼的な子育てから複眼的な子育てを行うことも必要になってくる。そこで、児童相談所などの相談機関や

地域子育て支援センターなどの積極的な子育て支援活動を活用することや、親同士が子育て支援ネットワークをつくり子育てグループ・サークルに参加することが求められている。また、子育て経験の乏しい母親に対しては、中・高年齢女性の豊かな経験を生かした子育て支援の重要性も指摘されている²⁾。

筆者らは、子育て不安と父親の子育て参画に関する調査研究を行ない、父親が子育てに参加するほど母親の子育て不安が軽減されることを実証した³⁾。また、子育てグループの一つである母親クラブに参加している母親を対象とした調査研究から、母親クラブ活動に満足している母親ほど子育て不安が低いことも指摘していた²⁾。しかし、中・高年齢女性である祖母等の子育て参加と子育て不安との関連性について調査研究を行なったものは少ない⁴⁾。

そこで、本研究では0～6歳児を持つ母親を対象にアンケート調査を実施し、祖父母の子育て参加の実態を明らかにするとともに、祖父母の子育て参加と子育て不安との関連性について検討を行なった。

研究 方法

1. 調査対象と方法

平成13年6月中旬から7月中旬にかけて、O市(O県)の保育所13ヶ所・幼稚園2ヶ所、E市(S県)の保育所1ヶ所・幼稚園1ヶ所の計17ヶ所において調査を実施した。これらの保育所および幼稚園に子ども(0-6歳)を通わせている母親を対象に、自記式

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科
(連絡先)八重樫牧子 〒701-0193 岡山県倉敷市松島288 川崎医療福祉大学

調査用紙を配付し、留置き調査を行った。各保育所および幼稚園の担任職員を通して、自記式調査用紙と返送用封筒を母親に配付した。後日、個別に封筒に入れた調査用紙を各保育所および幼稚園に届けてもらうことによって回収した。

調査用紙の配付数は1,416人、回収数は687人で回収率は48.5%であった。さらに、調査用紙を点検した結果、有効回答数は652人で有効回答率は46.0%であった。

2. 調査内容

調査内容は、以下の5点である。①母親の属性として、次の11項目についてたずねた。母親の年齢、父親の年齢、子どもの年齢、祖父母の年齢、子どもの人数、家族の人数、母親の就労形態、母親の最終学歴、家族形態、居住年数、居住形態である。②祖父母の生活状況については、次の4項目についてたずねた。居住状況(同居率、近居率)、居住距離(同一敷地内、歩いていける距離、車で30分、日帰りで往復できる、日帰りで往復できない)、就労状況(収入のある仕事、家の手伝い・趣味)、健康状態(全く健康、多少不自由、かなり不自由、病気のため寝たきり)である。③子育て環境として、子育て困難時の相談相手と、子育ての知識・情報源をたずねた。子育ての相談相手については、12項目(配偶者、自分の父母、配偶者の父母、自分のきょうだい、配偶者のきょうだい、近所の人や知人、友人、保健所や児童相談所など専門機関、かかりつけの医師、保育園・幼稚園・学校の先生、いない、その他)より複数回答を求めた。子育ての知識・情報源については、13項目(配偶者、自分の父母、配偶者の父母、自分のきょうだい、配偶者のきょうだい、近所の人や知人、友人、保健所や児童相談所など専門機関、かかりつけの医師、保育園・幼稚園・学校の先生、雑誌・本、テレビ・ラジオ等、その他)より複数回答を求めた。④子育て不安については、川井・庄司ら⁵⁾による29の育児不安項目を使用した。それぞれの項目について「よく思う」、「時々思う」、「ほとんど思わない」、「全く思わない」より1つを選択してもらった。⑤祖父母との関係については、3項目(同居していない祖父母との交流、祖父母の子育て参加状況、祖父母と子どもの関係)についてたずねた。同居していない祖父母との交流については、父方祖父、父方祖母、母方祖父、母方祖母別に「子どもが祖父母に会いに行く」頻度、「祖父母が子どもに会いに来る」頻度、「子どもが祖父母に電話をかける」頻度、「祖父母が子どもに電話をかける」頻度についてたずねた。頻度については、「ほとんど毎日」、「週に1回ぐらい」、「月1回ぐらい」、「年2~3回ぐらい」、「ほと

んどない」から1つ選んでもらった。祖父母の子育て参加や子どもとの関係については、父方祖父、父方祖母、母方祖父、母方祖母別に次の8項目について、「よくあてはまる」、「大体あてはまる」、「全くあてはまらない」のいずれかを選択してもらった。8項目については以下の通りである。「子どもの食事の世話をする」、「子どもをお風呂にいれる」、「子どもと一緒に遊ぶ」、「子どもに物を買ってやる」、「保育園等の送迎をする」、「子育てについて相談にのってくれる」、「子どもは祖父母になついている」、「子どもは祖父母のことをよくきく」である。

3. 分析方法

29の子育て不安項目と8の祖父母の子育て参加項目のいずれかに答えていなかった69人を除いた583人について、母親の子育て不安得点、子育て参加得点子どもとの関わり得点を算出した。子育て不安得点については、子育て不安項目の選択肢の「よくある」に3点、「時々ある」に2点、「あまりない」に1点、「全くない」に0点を附与した。29項目の子育て不安得点を合計し、平均値と標準偏差を求め、個人別の子育て不安得点を算出した。ただし、附与した点数が逆転する項目については得点を再計算し、項目にRを付加した。同様に祖父母の子育て参加項目(6項目)と子どもとの関わり項目(2項目)についても、「よくあてはまる」に2点、「大体あてはまる」に1点、「全くあてはまらない」に0点を附与し、個人別の祖父母の子育て参加得点と子ども関係得点を算出した。

子育ての相談相手や知識・情報源有無と子育て不安との関連性をみるために、子育て相談相手や知識・情報源があると答えた母親と無いと答えた母親の子育て不安得点についてt検定を行った。祖父母と孫の交流と母親の子育て不安との関連性をみるために、祖父母の交流に関する項目の頻度と子育て不安得点について一元配置分散分析を行った。祖父母の居住距離と孫との交流の関連性を検討するためにカイ2乗検定を行なった。子育て不安得点と、祖父母の子育て参加得点および子ども関係得点について一元配置分散分析を行なうことによって、子育て不安と祖父母の子育て参加状況の関連性を検討した。

研究結果

1. 対象の属性について

1-1 母親・父親・子ども・祖父母の年齢

調査対象の属性については表1の通りである。

母親の年齢は30-34歳が43.4%と最も多かった。母親の平均年齢は33.2歳で標準偏差は4.3であった。父親の年齢は35-39歳が32.5%と最も多かった。父

親の平均年齢は35.9歳で標準偏差は5.6であった。第1子の子どもの年齢は6歳以下が69.6%で最も多かった。第1子の平均年齢は5.6歳で標準偏差は2.8であった。祖父母の年齢については、父方祖父は64.9歳(標準偏差7.1)、父方祖母は62.3歳(標準偏差6.7)、母方祖父は62.5歳(標準偏差6.0)、母方祖母は60.2歳(標準偏差5.9)であった。

1-2 母親の就労形態と家族形態について

母親の就労形態は、表1に示した。専業主婦31.3%、常勤勤務25.9%、非常勤勤務29.4%とほぼ同数であった。母親の最終学歴は中・高卒が28.5%と最も多く、次いで短大卒27.8%、4年制大学24.7%であった。家族形態については、核家族が71.8%と最も多く、3世代家族は14.1%であった。居住年数は

3年未満が35.5%と最も多く、次いで5-10年未満が30.4%、そして3-5年未満は23.3%であった。住居形態は一戸建て住宅が55.5%、集合住宅が44.5%とやや前者が多くなっていた。子どもの人数は2人が最も多く48.6%を占めていた。家族の人数は4人が39.0%を占めていた。

1-3 祖父母について

祖父母との居住状況については、表2に示したように父方祖父母の方が母方祖父母より同居率が高く、父方祖母との同居率が8.6%と最も高くなっていた。また、同じ市・町内に住んでいる祖父母は、いずれも30%前後とかなり高い比率を示していた。祖父母との居住距離については、父方祖父母、母方祖父母とも車で30分くらいで行ける距離と答えている者が

表1 母親の属性

年齢	母親	平均年齢=33.2歳, 標準偏差=4.3, 30-34歳: 43.4%
	父親	平均年齢=35.9歳, 標準偏差=5.6, 35-39歳: 32.5%
	第1子	平均年齢=5.6歳, 標準偏差=2.8, 6歳以下: 69.6%
	父方祖父	平均年齢=64.9歳, 標準偏差=7.1
	父方祖母	平均年齢=62.3歳, 標準偏差=6.7
	母方祖父	平均年齢=62.5歳, 標準偏差=6.0
	母方祖母	平均年齢=60.2歳, 標準偏差=5.9
子どもの人数		平均人数=2.0人, 標準偏差=0.8, 2人: 48.6%
家族の人数		平均人数=4.3人, 標準偏差=1.2, 4人: 39.0%
母親の就労形態		専業主婦=31.3%, 常勤勤務=25.9%, 非常勤勤務=29.4%
母親の最終学歴		中・高卒: 28.5%, 短大卒: 27.8%, 4年制大卒: 24.7%
家族形態		核家族: 71.8%, 3世代家族: 14.1%
居住年数		3年未満: 35.5%, 3-5年未満23.3%, 5-10年未満: 30.4%
住居形態		一戸建て住宅: 55.5%, 集合住宅: 44.5%

表2 祖父母の生活状況

		単位: %			
		父方祖父母		母方祖父母	
		祖父	祖母	祖父	祖母
居住状況	同居率	7.1	8.6	2.9	3.4
	近居率	28.8	33.4	29.0	33.8
居住距離	同一敷地内	18.7		8.7	
	歩いていける距離	10.6		9.6	
	車で30分	27.7		39.8	
	日帰りで往復できる	24.1		24.1	
	日帰りで往復できない	19.0		17.7	
就労状況	収入のある仕事	47.9	44.0	59.2	46.9
	家の手伝い・趣味	32.5	50.0	34.4	53.4
健康状態	全く健康	58.7	68.6	67.5	78.5
	多少不自由	16.7	22.2	16.9	19.8
	かなり不自由	2.5	2.1	1.8	1.2
	病気のため寝たきり	1.5	0.9	1.1	0.8

多かったが、父方祖父母の場合は同一敷地内に居住している家族が18.7%と母方祖父母より多かった。祖父母の就労状況は、表2からわかるようにいずれも約半数の祖父母が収入のある仕事をしていることがわかる。また、祖父母の健康状態については、全く健康でなんでもできると答えている者が、母方祖母は78.5%と最も高く、父方祖父は58.7%と最も低かったが、祖父母の半数以上が健康な状態であることがわかる。

2. 子育ての相談相手と知識・情報源

子育てに困った時の相談相手については、図1に示した。相談相手は配偶者(夫)が78.2%と最も高く、次いで自分の父母70.7%、友人の68.7%であった。専門機関は3.7%と最も少なかった。また、相談相手として答えていた母親と答えていなかった母親の子育て不安得点についてt検定を行なった結果、専門機関と「自分のきょうだい」を除いた全ての相談相手について「相談する」と答えていた母親の子育て不安得点が有意に低くなっていた。

子育ての知識・情報源については、図2に示した。子育ての知識や情報源は友人が64.1%と最も多く、次いで自分の父母58.9%、保育所・幼稚園等の先生51.2%の順に多くなっていた。専門機関は6.0%と最

も少なかった。相談相手と同様に子育て知識・情報源として答えていた母親と答えていなかった母親の子育て不安得点についてt検定を行なった結果、雑誌・本、ラジオ・テレビ等、かかりつけの医師、配偶者のきょうだい、専門機関以外の7項目について子育て不安得点が有意に低くなっていた。

3. 同居していない祖父母との交流

図3は、同居していない父方祖父母と母方祖父母と子どもとの交流を示したものである。いずれの項目についても母方祖父母の方が、父方祖父母に比べ回数が多くなっていた。「子どもが会いに行く」頻度と「祖父母が会いに来る」頻度は、ほぼ同じであった。しかし、「子どもが電話をかける」頻度と「祖父母が電話をかける」頻度については、母方祖父母・父方祖父母とも子どもより祖父母の方が高くなっていた。祖父母との交流頻度と母親の子育て不安得点の関連性について検討するために、祖父母の交流別に母親の子育て不安得点の一元配置分散分析を行なったが、表3からわかるようにいずれも有意差は認められなかった。

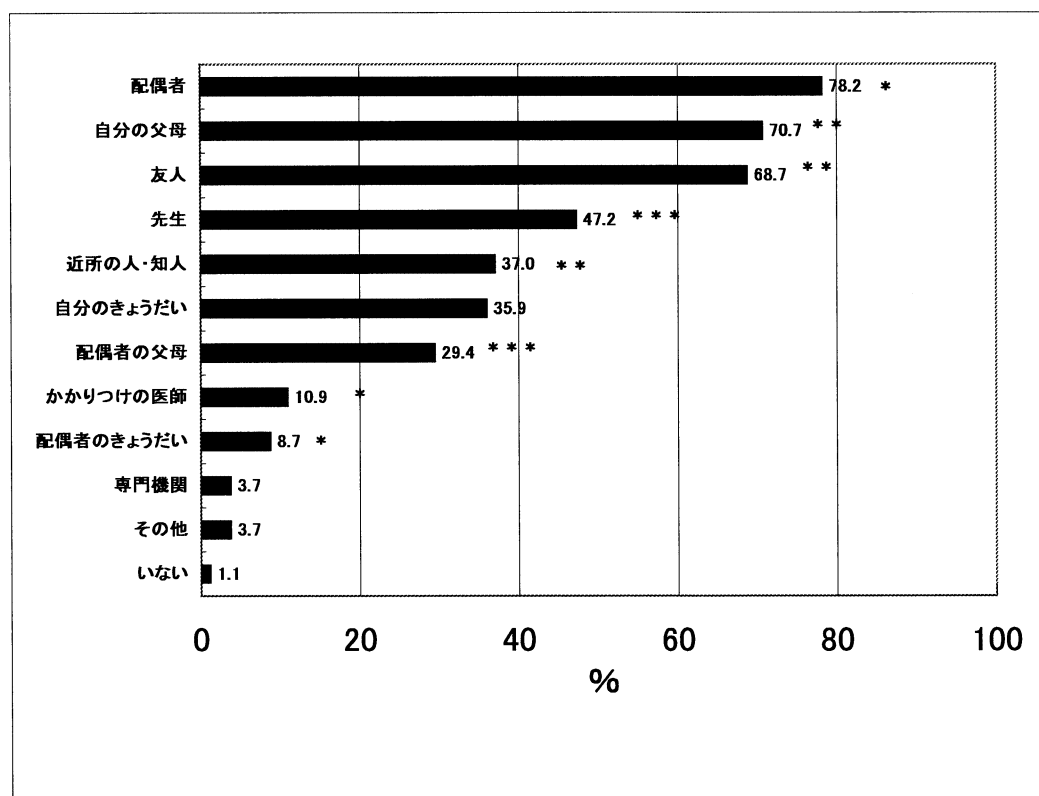


図1 子育ての相談相手

注) *** : $p < 0.001$, ** : $p < 0.01$, * : $p < 0.05$ の危険率で子育て不安得点と関連性が認められた

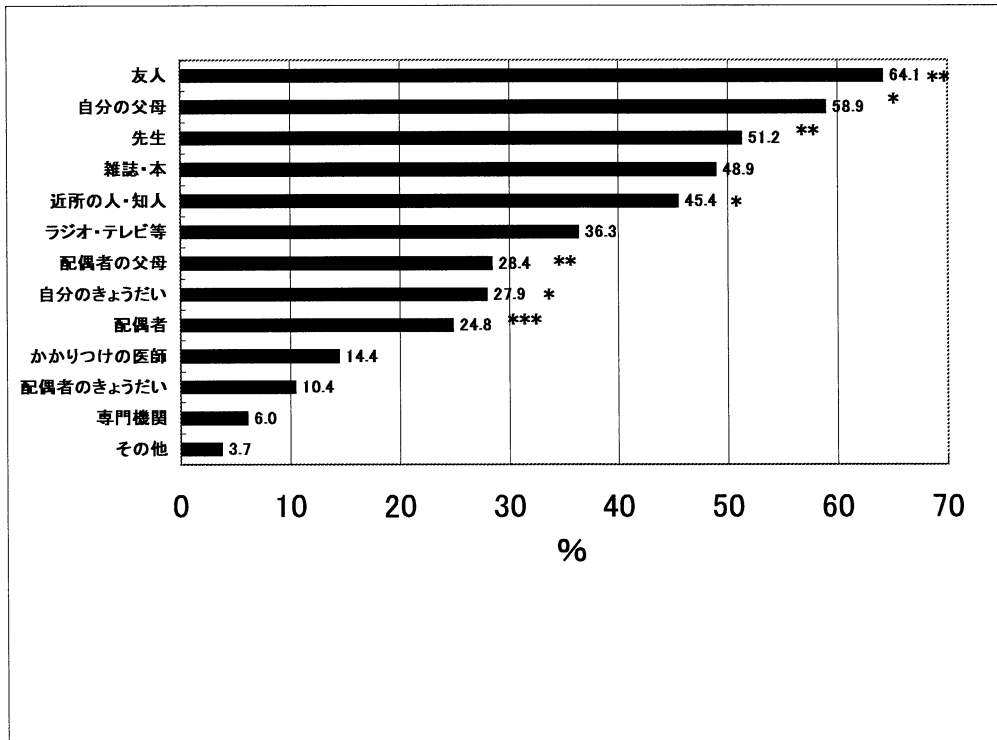


図2 子育て知識・情報源

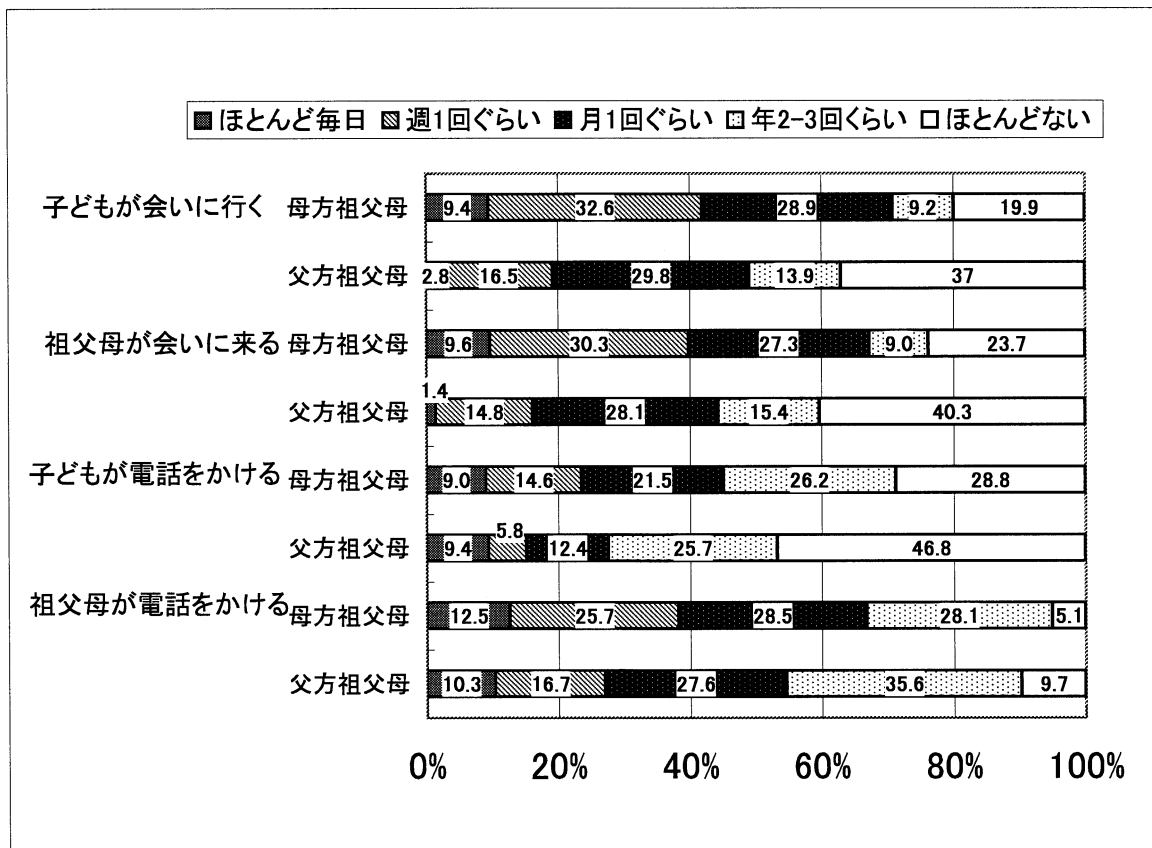


図3 同居していない祖父母との交流

表3 祖父母と孫の交流と母親の子育て不安得点との関連性

		父方祖父母				母方祖父母			
		人数	不安得点	有意確立	有意差	人数	不安得点	有意確立	有意差
子どもが会いに行く	ほとんど毎日	46	1.42	0.058	n s	60	1.33	0.650	n s
	週1回くらい	76	1.40			127	1.35		
	月1回くらい	125	1.28			135	1.35		
	年2~3回	167	1.40			136	1.40		
	ほとんどない	44	1.44			24	1.44		
祖父母が会いに来る	ほとんど毎日	42	1.36	0.791	n s	42	1.30	0.766	n s
	週1回くらい	26	1.44			75	1.36		
	月1回くらい	58	1.33			104	1.36		
	年2~3回	121	1.37			128	1.77		
	ほとんどない	209	1.38			133	1.39		
子どもが電話をかける	ほとんど毎日	4	1.09	0.512	n s	45	1.31	0.481	n s
	週1回くらい	69	1.35			152	1.33		
	月1回くらい	125	1.36			127	1.41		
	年2~3回	67	1.41			44	1.40		
	ほとんどない	189	1.39			112	1.37		
祖父母が電話をかける	ほとんど毎日	10	1.29	0.467	n s	46	1.33	0.818	n s
	週1回くらい	74	1.32			163	1.39		
	月1回くらい	139	1.39			139	1.36		
	年2~3回	61	1.44			43	1.37		
	ほとんどない	169	1.36			91	1.35		

注) 一元配置分散分析, n s : 有意差無

4. 祖父母の居住距離と孫との交流の関連性

表4は祖父母の居住距離と孫との交流の関連性を表したものである。訪問と電話に関する交流の頻度と祖父母の居住距離のクロス表を作成し、カイ2乗検定をした結果、0.1%の危険率で有意な関連性があることが認められた。訪問については、近距離であるほど交流頻度が高くなっていた。また、電話については車で30分くらいの距離に住んでいる祖父母が、他とくらべて電話をする回数が多くなっていた。

訪問については、歩いて行ける距離に住んでいる場合は、父方祖父母の方が多くなっていたが、車で30分の距離に住んでいる場合は、母方祖父母の方が多くなっていた。電話についてはいずれも母方祖父母の方が父方祖父母に比べて回数が多くなっていた。

5. 祖父母の居住距離と孫との交流の関連性

図4は、祖父母の子育て参加を表したものである。また、表5は、祖父母の子育て参加状況を得点化し、平均得点を示したものである。図4からわかるように、いずれの項目も母方祖母の子育て参加が最も高く、次に父方祖母、母方祖父、そして父方祖父が一番低くなっていることがわかる。しかし、表5からわかるように、得点化した場合には、「一緒に遊ぶ」については、有意な関連性は認められなかった。

図5は、祖父母と子どもの関わりを表したものである。両項目とも「よくあてはまる」と答えている

割合は母方祖母が高く、次に母方祖父、父方祖母、そして父方祖父が低くなっている。しかし、表5からわかるように、得点化した場合はいずれも有意な関連性は認められなかった。

表6は、祖父母の住居距離と子育て参加・孫との関わり方の関連を示したものである。祖父母の居住距離と子育て参加について顕著な差があったのは、保育園等の送迎であった。近くに住んでいるほど送迎をする場合が多いことが明らかになった。父方祖父母や母方祖母については、近隣の方が「食事の世話」や「一緒に遊ぶ」場合が多かった。父方祖父母や母方祖父については、近隣の方が「お風呂に入れる」ことが多かった。また、「子育て相談」については、車で30分の距離に住む母方祖母の参加が多かったが、有意差は認められなかった。「子育て相談」については、父方祖母に有意差が認められた。「物を買う」については、居住距離との関連性はなかった。

「なついている」と答えた母親は、車で30分の距離に住む母方祖母孫一番多くなっていたが、居住距離との関連性はなかった。父方祖父母については、近隣に住むほど孫がよくついていることが明らかになった。「いうことをきく」という項目について、母方祖父母のみ車で30分くらいの距離に住んでいる祖父母が、近距離より多くなっていた。

表4 祖父母と孫の交流

		孫が訪問***				祖父母が訪問***				孫が電話***				祖父母が電話***			
		父方祖父母		母方祖父母		父方祖父母		母方祖父母		父方祖父母		母方祖父母		父方祖父母		母方祖父母	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
歩いて行ける	ほとんど毎日	44	9.0	38	7.1	40	8.0	31	5.8	3	0.6	11	2.1	9	1.8	8	1.5
	週1回くらい	31	6.2	22	4.1	13	2.6	17	3.2	22	4.4	22	4.2	15	3.0	23	4.3
	月1回くらい	10	2.0	3	0.6	11	2.2	7	1.3	11	2.2	5	0.9	14	2.8	7	1.3
	年2~3回	2	0.4	0	0.0	7	1.4	3	0.6	6	1.2	1	0.2	4	0.8	1	0.2
	ほとんどない	1	0.2	0	0.0	18	3.6	1	0.2	47	9.5	24	4.6	48	9.7	23	4.4
車で30分	ほとんど毎日	7	1.4	29	5.4	6	1.2	16	3.0	3	0.6	22	4.2	3	0.6	21	3.9
	週1回くらい	49	9.8	99	18.6	14	2.8	47	8.8	21	4.3	74	14.0	30	6.1	82	15.4
	月1回くらい	66	13.3	83	15.6	34	6.8	72	13.5	42	8.5	51	9.6	40	8.1	49	9.2
	年2~3回	27	5.4	4	0.8	40	8.0	38	7.1	13	2.6	12	2.3	14	2.8	24	4.5
	ほとんどない	8	1.6	6	1.1	64	12.9	52	9.7	76	15.4	62	11.7	68	13.8	47	8.8
日帰りできる	ほとんど毎日	0	0.0	0	0.0	1	0.2	1	0.2	1	0.2	8	1.5	1	0.2	10	1.9
	週1回くらい	4	0.8	15	2.8	2	0.4	14	2.6	14	2.8	29	5.5	20	4.1	37	7.0
	月1回くらい	58	11.6	60	11.3	15	3.0	31	5.8	50	10.1	58	10.9	55	11.2	57	10.7
	年2~3回	66	13.3	58	10.9	45	9.1	48	9.0	27	5.5	19	3.6	23	4.7	14	2.6
	ほとんどない	12	2.4	7	1.3	75	15.1	45	8.4	46	9.3	25	4.7	37	7.5	22	4.1
日帰りできない	ほとんど毎日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	10	1.9	1	0.2	11	2.1
	週1回くらい	0	0.0	1	0.2	0	0.0	0	0.0	17	3.4	36	6.8	17	3.4	32	6.0
	月1回くらい	4	0.8	6	1.1	2	0.4	5	0.9	36	7.3	31	5.8	39	7.9	41	7.7
	年2~3回	84	16.9	88	16.5	36	7.2	51	9.6	31	6.3	16	3.0	28	5.7	10	1.9
	ほとんどない	24	4.8	12	2.3	74	14.9	50	9.4	28	5.7	14	2.6	27	5.5	13	2.4
計		498	100	533	100	497	100	534	100	494	100	530	100	493	100	532	100

注) ***: 祖父母との距離と祖父母との交流頻度がP<0.001で有意差が認められた。

表5 祖父母の子育て参加得点と子ども関係得点

		父方祖父	父方祖母	母方祖父	母方祖母	漸近有意確立	有意差
子育て参加	食事の世話	1.32	1.93	1.45	2.04	0.000	***
	お風呂の世話	1.46	1.47	1.58	1.74	0.000	***
	一緒に遊ぶ	2.05	2.09	2.14	2.09	0.410	ns
	物を買う	2.01	2.14	2.10	2.21	0.005	**
	保育所等の送迎	1.23	1.30	1.22	1.36	0.003	**
	子育て相談	1.53	1.98	1.83	2.09	0.000	***
子ども関係	なついている	2.06	2.08	2.10	2.06	0.256	ns
	言うことをきく	2.20	2.21	2.28	2.29	0.260	ns

注) Friedman検定, ***: P<0.001, **: <0.01, ns: 有意差無

6. 祖父母の子育て参加・孫との関わり方と子育て不安との関連性

表7からわかるように、祖父母の子育て参加については、父方祖母の「お風呂にいれる」、父方祖母と母方祖父の「一緒に遊ぶ」、そして父方祖母と母方祖父の「子育て相談」の項目について、子育て不安得点と有意な関連性が認められた。これらの項目について多重比較(LSD検定)を行なった結果、いずれも「大体あてはまる」と答えた母親の子育て不安得点が低くなっていた。

また、表7に示したように、父方祖母の「なついている」と父方・母方祖父母の「言うことをきく」については、子育て不安得点と有意な関連性が認め

られた。多重比較(LSD検定)を行なった結果は、祖父母の子育て参加と同様に「大体あてはまる」と答えた母親の子育て不安得点が低くなっていた。

考 察

1. 祖父母と孫の交流

祖父母と同居している三世代家族は、14.1%で、核家族は71.8%であった。平成13年国民生活基礎調査によると、三世代家族は、10.6%、核家族は58.9%である。全国と比べると三世代家族、核家族の割合が高いことがわかる⁶⁾。特に、父方祖父母については18.7%の者が同一敷地内に居住しており、歩いて行ける距離を含むと約3割に及ぶ。また、同じ市内に

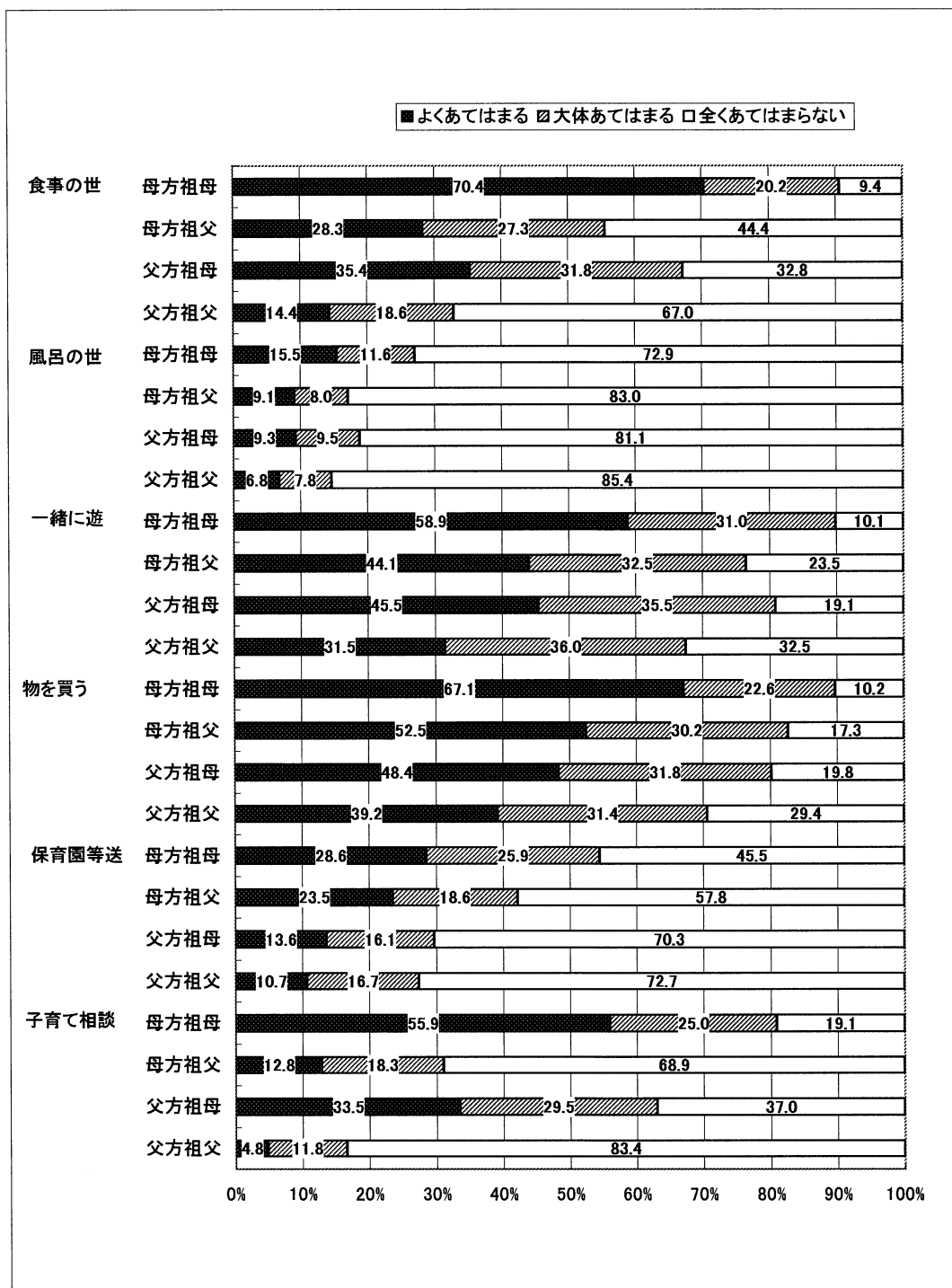


図4 祖父母の子育て参加

居住する祖父母は3割、車で30分以内に居住する祖父母は6割弱であった。近年、親世帯と子世帯が近くに住みあい、互いに密な交流を保つ近居交流型のライフスタイルになってきているといわれるが⁷⁾、本調査からもこのようなライフスタイルの者が多いことが推察される。また、子育て中の母親の年齢が若いことから、祖父母の平均年齢も若く、半数以上

の祖父母が、健康で収入のある仕事をしている。

このような状況のなかで、子育てに困った時の相談相手や子育てに関する知識・情報源として自分の父母をあげている母親が多くなっていた。しかも、相談相手や知識・情報源として自分の父母や配偶者の父母(母方祖父母・父方祖父母)をあげている母親の子育て不安得点は低くなっていた。子育て中の

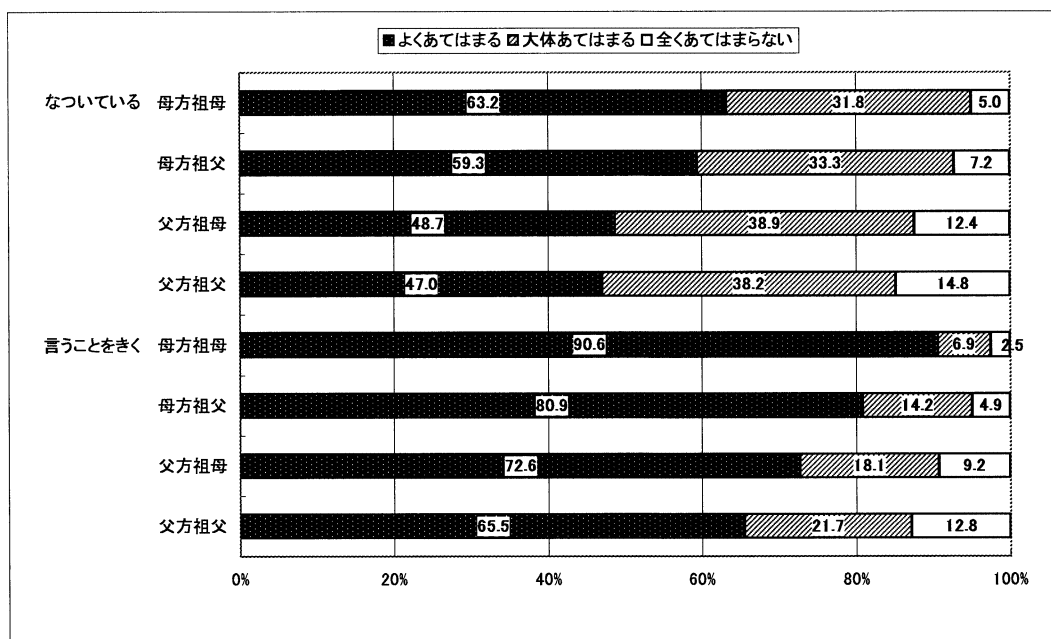


図5 祖父母と子どもの関係

母親にとって祖父母は、インフォーマルな社会資源として重要であるといえる。

同居していない祖父母の場合は、訪問や電話の頻度は、母方祖父母の方が高くなっていた。また、居住距離とも関連があった。訪問については近距離であるほど頻度が高かった。訪問頻度と距離の関連性については、板野等も同様な結果を得ている⁸⁾。電話については中距離(車で30分くらい)の頻度が高いことが明らかになった。ただし居住距離や交流頻度と子育て不安得点とは有意な差がなかったことに留意しなければならない。この点については、後ほど考察したい。

2. 祖父母の子育て参加と孫との関わり

子育て参加については、母方祖母の参加得点が最も高く、次に父方祖母、母方祖父、そして父方祖父であった。祖父よりも祖母が、父方よりも母方の方が子育てに関わることが多いことが推察される。松岡等も義母より実母の方が子育て参加得点が高いことを示している⁴⁾。また、「食事の世話」等の直接的子育てより「物を買う」「一緒に遊ぶ」といった間接的子育ての参加得点が高くなっていることに留意したい。北村は、祖母にとって孫の世話は、楽しみとしての積極的な位置付けと、母親の負担を軽減するという消極的な位置付けという二つの側面があるとして、消極的な理由から祖父母が孫育てに参加している場合は、祖父母の身体的な疲れや子夫婦との方針の違いが問題になりやすいと指摘している⁷⁾。したがって、間接的な子育ては祖父母にとって楽しみ

としての積極的な意味をもち、孫との関わりは生きがいに繋がると思われる。

祖父母と孫の関わり方については、いずれも得点が高く、孫との積極的な交流が図られていることが推測される。また、このことは、孫の社会性の発達に肯定的な影響を与えるといえる。

3. 祖父母の子育て参加・孫との関わり方と母親の子育て不安

祖父母の子育て参加に関する項目の「お風呂に入れる」(父方祖母)、「一緒に遊ぶ」(父方祖母、母方祖父)、「子育て相談」(父方祖母、母方祖父、母方祖母)について「大体あてはまる」と答えていた母親の子育て不安得点が低くなっていた。また、祖父母と孫の関係に関する項目の「なついている」(父方祖母)と「言うことをきく」(父方祖父、父方祖母、母方祖父、母方祖母)についても「大体あてはまる」と答えていた母親の子育て不安得点が低くなっていた。当初、祖父母の子育て参加や孫との関わり方に関する得点が高いほど、母親の子育て不安が低くなると予測していたが、予測に反する結果になった。また、先にも述べたように祖父母との居住距離や交流(訪問や電話)の頻度と母親の子育て不安得点との関連性は認められなかった。この点についても、居住距離が近いほど、また交流の頻度が高いほど、母親の子育て不安が低くなると予測していたが、異なる結果になった。

北村は、孫の育児をめぐる問題として、子夫婦と祖父母の意見の対立や両者の不仲の問題をあげ、特

表6 祖父母との距離と子育て参加・孫との関わり方の関連性

項 目		単位：%												計	有意確率	有意差	
		歩いて行ける			車で30分			日帰りできる			日帰りできない						
		1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3				
祖父母の子育て参加	食事の世話をする	父方祖父	1.6	5.4	22.6	1.5	2.7	22.4	1.5	1.5	21.6	0.2	2.3	16.6	100	0.012	*
		父方祖母	12.4	9.8	7.7	8.9	8.7	9.9	7.4	8.9	8.8	5.0	2.3	10.8	100	0.000	***
		母方祖父	3.0	4.8	10.1	4.4	7.2	28.2	3.6	4.4	18.0	1.9	2.1	12.5	100	0.154	ns
		母方祖母	13.6	3.2	1.8	21.2	12.2	6.8	12.3	6.3	5.3	9.0	3.5	4.70	100	0.001	**
	お風呂に入れる	父方祖父	3.3	7.9	18.9	2.9	3.3	20.3	1.9	3.9	18.5	2.5	1.7	14.9	100	0.003	**
		父方祖母	4.9	6.8	18.4	3.6	4.6	18.9	2.9	4.1	17.5	2.5	0.7	15.2	100	0.000	***
		母方祖父	4.8	3.4	8.3	9.7	6.6	23.7	5.5	6.4	14.2	3.8	1.3	11.4	100	0.029	*
		母方祖母	6.7	4.8	7.1	11.0	10.8	18.1	5.9	6.4	12.0	5.1	4.1	8.10	100	0.492	ns
	一緒に遊ぶ	父方祖父	13.8	10.9	5.2	10.1	8.9	8.8	8.5	8.5	7.2	7.0	3.3	8.5	100	0.002	**
		父方祖母	16.6	9.8	3.5	13.3	9.4	4.9	11.3	8.5	4.6	7.6	4.4	6.2	100	0.002	**
		母方祖父	9.8	5.7	2.2	20.9	12.3	6.8	23.2	31.3	24.4	9.8	2.8	3.80	100	0.157	ns
		母方祖母	14.6	3.0	1.0	27.6	9.1	3.5	13.3	7.3	3.3	12.0	3.2	2.20	100	0.017	*
物を買ってやる	父方祖父	9.7	10.9	9.1	8.5	11.0	7.6	6.8	9.3	8.1	6.4	5.2	7.4	100	0.170	ns	
	父方祖母	13.3	10.8	5.8	12.7	10.4	4.4	10.6	9.2	4.6	9.2	5.3	3.7	100	0.603	ns	
	母方祖父	7.7	5.9	4.1	18.3	12.5	9.4	11.5	9.8	4.3	6.8	4.5	5.1	100	0.201	ns	
	母方祖母	11.9	5.5	1.2	23.2	12.7	4.3	13.3	8.2	2.5	10.8	4.8	1.70	100	0.581	ns	
保育園等の送迎	父方祖父	4.5	6.3	19.3	1.5	1.2	24.3	0.4	0.0	23.7	0.4	0.4	18.0	100	0.000	***	
	父方祖母	6.6	6.4	17.0	1.6	2.7	23.0	0.5	0.4	23.5	0.7	0.2	17.5	100	0.000	***	
	母方祖父	4.1	2.8	10.8	3.6	3.6	39.3	1.1	1.3	23.2	0.2	0.2	16.2	100	0.000	***	
	母方祖母	8.1	3.8	6.9	5.4	6.1	28.4	1.4	1.5	21.1	0.7	0.3	16.4	100	0.000	***	
子育て相談	父方祖父	4.6	4.0	21.5	3.3	6.3	17.3	4.0	5.6	14.6	2.7	2.9	8.2	100	0.182	ns	
	父方祖母	13.3	8.9	7.8	9.9	9.0	8.7	7.6	8.5	8.2	4.8	5.7	7.6	100	0.017	*	
	母方祖父	7.2	5.6	5.8	9.6	10.4	20.3	7.5	8.1	10.2	4.0	3.8	8.40	100	0.208	ns	
	母方祖母	14.2	3.3	1.2	28.3	8.0	4.0	15.5	5.7	2.7	12.8	3.2	1.30	100	0.604	ns	
子どもとの関係	なついている	父方祖父	24.6	3.5	1.6	16.8	7.6	3.3	14.5	5.3	4.1	10.0	5.5	1.9	100	0.000	***
		父方祖母	26.2	2.5	1.1	19.0	6.9	2.1	16.9	3.9	3.5	11.1	4.9	3.1	100	0.003	**
		母方祖父	14.1	3.1	0.6	32.4	5.1	2.6	21.8	3.0	0.9	12.8	3.2	0.40	100	0.119	ns
		母方祖母	16.7	1.5	0.3	36.7	2.5	0.8	21.6	1.7	0.8	15.8	1.3	0.2	100	0.825	ns
	言うことをきく	父方祖父	13.7	13.1	2.8	11.7	12.1	3.7	12.5	7.2	4.3	9.4	6.2	3.1	100	0.206	ns
		父方祖母	12.1	16.2	1.9	11.1	12.9	3.1	8.1	12.5	3.6	6.3	9.2	3.1	100	0.129	ns
		母方祖父	10.1	6.8	0.9	23.3	13.4	3.2	15.0	9.1	1.7	11.6	4.0	0.9	100	0.189	ns
		母方祖母	11.5	6.0	1.2	24.7	13.5	1.7	14.2	8.5	1.5	13.2	3.8	0.3	100	0.020	*

注1) カイ2乗検定の結果。*** : p<0.001, ** : p<0.01, * : p<0.05, ns : 有意差なし

注2) 1 : よくあてはまる, 2 : 大体あてはまる, 3 : 全くあてはまらない

に、夫方の祖母と孫の母親が姑と嫁の間柄に当たる場合には、両者の関係が不仲に陥りやすいと指摘している⁷⁾。また、松岡等も子育てに対して心配・不安のある母親では、祖母もまた育児方針が異なるといった不安を多くもっていることを明らかにしている⁵⁾。このことから、祖父母と同一敷地内で生活するよりも適度な距離を保ちながら、適度な交流をとる方が祖父母と子夫婦の対立が少なくなると思われる。また、子育て参加や孫との関わり方についても、「よくあてはまる」や「全くあてはまらない」というより「大体あてはまる」と適度な関わり方をしている母親の方が、子育てについて祖父母と意見が対立することが少なく、その結果、子育て不安やストレスも蓄積されることが少なくなったと推察される。

ま と め

祖父母の子育て参加の実態や祖父母の子育て参加と子育て不安との関連性について検討した結果、以下のことが明らかになった。

- ① 父方祖父母、母方祖父母とも近隣に居住しており、健康で収入ある仕事をしていた。
- ② 子育ての相談相手や情報源として自分の父母をあげている母親が多く、彼等の子育て不安得点は低くなっていた。子育て中の母親にとって祖父母は重要なインフォーマルな社会資源であるといえる。
- ③ 同居していない祖父母の場合、母方祖父母の方が、孫との交流(訪問・電話)が多かった。
- ④ 祖父母と子育て参加は、母方祖母が最も多く、次に父方祖母、母方祖父そして父方祖父であった。直接的な子育て得点(食事の世話、お風呂に入れる等)より間接的な子育て得点(物を買う、一緒に遊ぶ)の方が高くなっていた。間接的な子育てでは祖父母にとっては日常生活の楽しみとして積極的な意味をもち、孫との関わりは生きがいにも繋がると思われる。
- ⑤ 祖父母と孫との関わり方については、父方祖父、父方祖母、母方祖父そして母方祖母の間

表7 祖父母の子育て参加得点・子どもとの関係得点と母親の子育て不安得点との関連性

項目		よくあてはまる		大体あてはまる		全くあてはまらない		有意確率	有意差	LSD	
		人数	得点	人数	得点	人数	得点				
祖父母の子育て参加	食事の世話をする	父方祖父	55	1.40	21	1.27	368	1.34	0.420	ns	
		父方祖母	147	1.38	184	1.31	192	1.39	0.161	ns	
		母方祖父	87	1.38	63	1.37	335	1.38	0.487	ns	
		母方祖母	139	1.34	307	1.37	103	1.32	0.428	ns	
	お風呂に入れる	父方祖父	75	1.32	46	1.29	326	1.35	0.564	ns	
		父方祖母	82	1.35	75	1.25	363	1.38	0.035	*	2・1<3
		母方祖父	91	1.39	114	1.29	279	1.35	1.310	ns	
		母方祖母	142	1.37	155	1.33	246	1.35	0.625	ns	
	一緒に遊ぶ	父方祖父	145	1.36	180	1.29	125	1.39	0.055	ns	
		父方祖母	161	1.39	258	1.31	104	1.43	0.018	**	2<1・3
		母方祖父	145	1.41	260	1.30	80	1.35	0.031	*	2<1・3
		母方祖母	120	1.40	374	1.34	55	1.33	2.272	ns	
	物を買ってやる	父方祖父	166	1.35	142	1.31	142	1.37	0.375	ns	
		父方祖母	188	1.34	237	1.35	100	1.39	0.554	ns	
		母方祖父	161	1.37	214	1.34	111	1.30	0.335	ns	
		母方祖母	169	1.36	327	1.36	53	1.29	0.175	ns	
保育園等の送迎	父方祖父	36	1.31	31	1.32	380	1.35	0.806	ns		
	父方祖母	49	1.34	49	1.28	421	1.37	0.301	ns		
	母方祖父	39	1.36	42	1.34	400	1.34	0.943	ns		
	母方祖母	64	1.35	82	1.36	395	1.36	0.998	ns		
子育て相談	父方祖父	85	1.32	62	1.31	299	1.35	0.645	ns		
	父方祖母	163	1.37	187	1.30	173	1.41	0.021	**	2・1<3	
	母方祖父	132	1.40	134	1.27	216	1.40	0.031	*	2<1・3	
	母方祖母	110	1.42	389	1.33	50	1.17	0.034	*	2<1・3	
子どもとの関係	なついている	父方祖父	99	1.36	295	1.31	59	1.43	0.076	ns	
		父方祖母	95	1.37	380	1.33	51	1.53	0.003	**	2<1<3
		母方祖父	65	1.37	398	1.34	23	1.24	0.412	ns	
		母方祖母	34	1.45	500	1.35	14	1.37	0.346	ns	
	言うことをきく	父方祖父	171	1.35	215	1.29	67	1.47	0.004	**	2・1<3
		父方祖母	196	1.40	264	1.30	66	1.46	0.001	**	2<1・3
		母方祖父	156	1.42	296	1.31	34	1.30	0.012	*	3・2<1
		母方祖母	166	1.46	355	1.30	27	1.42	0.000	***	2<1・3

注1) *** : p < 0.001, ** : p < 0.01, * : p < 0.05, ns : 有意差なし

注2) 1 : よくあてはまる, 2 : 大体あてはまる, 3 : 全くあてはまらない

注3) 一元配置分散分析野結果

に大きな差は認められなかった。いずれも高い関係得点であったことから、孫との良好な関わりが図られていると推察される。

- ⑥ 祖父母との距離・交流（訪問・電話）については、母親の子育て不安とは関連がなかった。
- ⑦ 「お風呂に入れる」「一緒に遊ぶ」「子育て相談」の子育て参加や、「なついている」「言うことをきく」という孫との関わり方については、適度な参加や関わり方をしている母親の子育て不安が低かった。特に「子育て相談」は、父方祖父以外の祖父母について有意な関連性が認められた。適度に関わることによって、子育てについて祖父母と意見が対立することが少なくなり、その結果、子育て不安やストレスも蓄積されにくいと考えられる。

本研究において、祖父母の子育て参加と子育て不安の関連性が認められた。特に、あまり密接になりすぎない適度な「子育て相談」の重要性を確認する

ことができた。子育ての知識や技術が十分伝達されないまま子育てを行なわなければならない若い親にとって、祖父母は子育て相談のインフォーマルな社会資源といえる。また、間接的な子育ては、祖父母にとっては生きがいにもつながり、孫にとっても豊かな人間関係を通して社会性を養うことができる。今後、祖父母が、子夫婦のよき相談相手となり、また孫との良好な関わりが取り結ぶことができるよう「世代間コミュニケーション」⁹⁾を活性化することが重要である。そのためには、祖父母を対象とした教育プログラム⁹⁾も検討していく必要があると思われる。

本稿を終えるにあたり、アンケート調査にご協力いただいた保育園・幼稚園の園長をはじめ職員の皆様、および保育園・幼稚園の保護者の皆様に感謝いたします。また、アンケート調査を実施するにあたり、ノートルダム清心女子大学児童学科奥山清子教授、旭川専門学院林基子先生および

び旭川荘板野美佐子先生にご助言を受け賜りました。また、統計処理をするにあたり川崎医療福祉大学医療福祉学科戸守美希さんと佐々木美代さんのご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。なお、本研究は平成12年度

川崎医療福祉大学総合研究の一部であり、本大学より助成を受けたことを感謝申し上げます。要旨は日本社会福祉学会大50回記念全国大会において発表した。

文 献

- 1) 八重樫牧子：母親の虐待傾向と虐待的経験が母親の子育てに与える影響。日本子ども家庭福祉学，**3**，11-23，2003。
- 2) 八重樫牧子：母親クラブ活動調査からみた子育て支援に及ぼす母親クラブの役割と課題。川崎医療福祉学会誌，**12**(1)，27-43，2002。
- 3) 本保恭子・八重樫牧子：母親の子育て不安と父親の家事・子育て参加との関連性に関する研究。川崎医療福祉学会誌，**13**(1)，1-13，2003。
- 4) 松岡知子・宮中文子・岩脇陽子：祖母の子育て参加が母親に与える影響。母性衛生，**37**(1)，91-98，1996。
- 5) 川井尚・庄司順一他：育児不安に関する臨床的研究—幼児の母親を中心に—。日本愛育研究所紀要，**32**，27-42，1995。
- 6) 厚生統計協会編：国民の福祉の動向・厚生指標 臨時増刊号，**49**(12)，24，2002。
- 7) 北村安樹子：家族における世代間交流—祖父母にとっての孫の存在。厚生福祉，4777，2-5，1999。
- 8) 板野美佐子・花谷香津世・奥山清子：母親から見た幼児と祖父母の交流。川崎医療福祉学会誌，**9**(1)，63-71，1996。
- 9) 清水美智子：祖父母と孫のつきあい方。EDUCATION AND INFORMATION，498，12-15，2001。

(平成15年11月29日受理)

Influences on Mothers' Raising of Children through Grandparents' Participation

Makiko YAEGASHI, Yasuhiko EGUSA, Yonhi RI, Takanori OGAWA and Takako WATANABE

(Accepted Nov. 29, 2003)

Key words : GRANDPARENTS, GRANDCHILDREN, PARTICIPATION WITH RAISING CHILDREN,
MOTHER'S ANXIETY ON RAISING A CHILD, CHILD CARE SUPPORT

Abstract

As a support for reducing mothers' burdens and anxieties over raising their children, it is said that support from the middle and senior age groups, who have a rich experience in raising children themselves, are important. In this article, the author investigates the actual condition of grandparents' participation and discusses the relevance between grandparents' participation and mothers' anxiety on raising children.

As a result of a questionnaire survey of 652 mothers with infants, the following were found:

① Many mothers answered that the mother's parents, who are grandparents for the infants, are advisers and an information resource about raising children. Also, there was a high relevance toward anxiety on raising children that led mothers to rely on grandparents. ② Grandparents who live in the neighborhood of their grandchildren spend time with them. ③ The grandparents were ranked according to how often they helped out with their grandchildren and how close they were to them : The mother's mother was the highest, and the father's mother was second. The mother's father came after that and the last person was the father's father. ④ Mothers whose grandparents participated often with raising infants showed a low anxiety.

Correspondence to : Makiko YAEGASHI Department of Medical Social Work , Faculty of Medical Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki , 701-0193 , Japan
(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.13, No.2, 2003 233-245)